

CAVOK 2016年航海日誌 NO4

(8月9日(水) Corfu ~ 8月31日(木) Karamata)

松崎義邦氏メール(9月4日)

皆様に

7月下旬に一時帰国した後8月9日にコルフ島に戻りイオニア海の航海を続けました。夏のこのあたりの気象はバルカン半島に高気圧が居座り、そして地中海東のキプロス島辺りを中心に低気圧が居座っています。

その関係で丁度高気圧と低気圧の狭間になるエーゲ海では北風が大変強く吹きメルテメと呼ばれ恐れられています。幸いイオニア海は高気圧圏内で弱い北風が季節風で穏やかなクルージングが出来ました。

途中寄港したケファロニア島、ザキントス島は美しいビーチが沢山あり人気の島々です。9日から次々ゲストがいらして賑やかになりました。娘婿の父親をはじめ毎年乗船しているアメリカ人、サルデーニャ島でお世話になった料理好きのイタリア人と国際色も豊かでした。イタリア人のアントニオが作ったスパゲティ・アラゴスタは最高に美味しいスパゲティでした。ザキントス島ではトリッパーボート(観光船の一種)で島を一周して美しいビーチで泳いだり洞窟を覗いたり楽しい海辺の遊びも楽しめました。

錨泊地も多くクリスタルウオターの中で泳いだり、星空を見ながらデッキで一杯も錨泊ならでした。

この後少しは気圧傾度が弱まりメルテメも収まる9月にエーゲ海に入りクレタ島までの航海を予定しています。

下記の写真を添付させていただきます。

1. イオニア海 Meganisi 島
2. Spartochori 湾 棧橋レストラン"Spila"
3. Kefallinia 島 メッサリニ洞窟
4. Kefallinia 島 ミルトス・ビーチ
5. Kefallinia 島 小さなビーチ
6. Zakynthos 島 白い岩壁と青い海
7. Zakynthos 島 Keri の入り江
8. Methoni テンダーのもやいを取ってくれた子供達
9. Methoni オスマントルコ時代の塔

ペロポネソス半島 Limeni にて

松崎義邦

2016年 CAVOKV 航海日誌(4)

8月9日(火) Corfu 快晴

今日の15時に定刻通りコルフ空港に到着する。本来は7日に到着して8日に来る娘婿のお父さん米谷さんを迎える予定であったが私の手違いで2日遅れの本日の到着になってしまった。米谷さんには、マリーナの近くのホテルに泊まってもらった。

コルフ空港に着いて直ぐ米谷さんに電話すると既にマリーナに来ており CAVOK5 を見つけてそこにいるとの事で安心した。空港からマリーナ迄近い。20分弱でマリーナに着くと近くのお店で休んでいた米谷さんが来てくれた。私の手違いにも関わらずにこやかな米谷さんに会ってホットする。お連れの理香さんが暑さにやられているのが気がかりだ。

早速荷物の整理とデッキの水洗いを米谷さんに手伝ってもらう。

買い物をお願いして、私は旧市街地に行ってインターネットのSIMカードを買いに行く。3か月間6Gで25€だった。

慌ただしい一日になったが何とか明日からの出航準備も出来てビールで喉を潤す。

夕食はフェタチーズの入ったグreekサラダ、メロンとプロシュート、パンとタラモを白ワインで頂く。理香さんは暑さに負けて日射病気味で食欲は無い。

食後24時過ぎまで米谷さんと水割りを飲みながら子供達の話を中心にあれやこれやお話しながら良い時間を過ごす。

時差に関係なくぐっすりと休めた。

8月10日(水) Corfu Erikoussa(30NM) 快晴 北北西微風

朝7時前に出る予定をしていたが寝坊してしまう。久しぶりの出航なのでミスが無い様点検してから07:20に舳を解く。静かな海面だ。

風は向かい風の微風だったので慣れた海域をエリコウサ島迄機走する。

13:00にエリコウサの入り江の7mの深さの砂地にアンカーを打つ。既に10艇以上錨泊していた。

早速ラバーボートを降ろして上陸してお昼を海辺のレストランでツナクラブサンド、ハムクラブサンドとムサカをビールで食べる。

理香さんが未だ調子が良くないのでそのまま砂浜でパラソルとビーチベットを借りてそこで休むことにした。

夏の海のバカンス真最中の浜辺だった。ついでに Sandro の家に行きコルフ島のゲーピア

マリナーのバースを借りたお礼と今晚の食事の予約をして悦子と私は艇に戻る。

お昼にビールを飲んだので暫く転寝を楽しむ。海底もきれいに見える海なので転寝の後泳ぐ。ついでにペラと速度計の貝落としをする。アンカーはしっかり砂地に食い込んでいた。

夕方米谷さんを迎えに行く。皆さん疲れたのか暫く横になってから 20 時に Sandro の家に行く。バースを借りたお礼に日本からのお土産を渡す。彼はイタリア人なのでメニューはイタリアンになる。タコのポテトクリームソース、セピアのグリーンソース、ムール貝の Pasta、マグロトロのたたき、タイとスズキの入ったフィッシュスープをスパークリングワインと白ワインで食べる。野菜のすり身のソースはクリーミーで絶品だった。

Sandro と Franca は今年の 3 月に日本に来るとの事で再会を約して別れる。

半月の月光に照らされた海面をラバーボートで艇に戻る。

8月11日(木) Erikoussa Paxoi (Gaios) (50NM) 快晴 北西微風~10ノット

07:20にアンカーを揚げる。今日も寝坊してしまった。今日も又静かな海だ。追い風だが弱いので機走する。当初目的地は Paxoi 島の Lakka の入り江であったが理香さんが日射病にやられたみたいなので具合が良くない。熱さましの薬を飲んだが良くならないので Lakka の錨泊は止めて Paxoi 島のメイン港の Gaios に目的地を変える。16時に Gaios の入り江に入るが錨留場所は満杯で入る余地がない。パイロットブックによると17時過ぎに観光船が出たあと岸壁が空くので係留できると書いてあったので粘り強く待つ。地元の艇は良く知っていて観光船が出た後直ぐ係留して入る余地がなくなってしまった。困ったなと思っていると既に係留していた艇から脇に入れる旨親切に勧誘してくれる。早速バウにアンカーを打って岸壁に槍付けする。いつも親切に救われている。着岸すると親切な年配のギリシャ人が世話してくれて電気、水も使えるようにしてくれた。彼は昔船員で日本に何回も来ていたそうだ。ギリシャでは彼みたいな昔船員で日本に来た事のある人によく合う。

理香さんの熱が下がらないので医者をお願いすると20分後に医者に来てくれた。

やっぱり日射病で処方箋を用意してくれた。

理香さんもお医者さんに診てもらったのと薬を飲んだこともあり少し元気になりホットする。

米谷さんと港の脇の海水浴場で泳いでからシャワーを浴びていつもの夕暮れのハッピーアワーに入る。生ハム、エビのアヒージョ、グreekサラダを肴に、ジントニックで始まってから白ワインに移る。理香さんはやっと食事が食べられるようになり梅干しと佃煮でご飯を食べることが出来るようになった。我々もご飯と梅干佃煮を頂いた。ここは観光船がコルフ島から来るところなので明日10時前には出なければいけないとの事だ。電気、水道が来てメインの通りの前でラッキーな場所に錨留出来た。

8月12日(金) Paxoi ~ Meganisi (45 NM) 快晴 西北西微風 ~ 20 ノット

午後から北西風が強くなる予報だったので7時にアンカーを揚げる。狭いところに横並びの各艇がアンカーを打っているのが交差を心配していたが交差もなくアンカーが揚がる。

ここから32NM先のレフカダ島と本島の間は運河になっている。入り口に道路の橋がありこれが開門しないと通れない。パイロットブックによると毎時丁度に開くことになっていたのでも13時丁度に合わせて速度を調整していく。20分前に着いたが13時になっても開門しない。入り口には5,6隻の艇が岸壁に舫っているのでも開門は何時か聞いてみると14時との事だった。我々も岸壁に舫いみそ汁とお握りのお昼を頂く。理香さんも少し元気が出てきた。

14時の開門とともに約3NMある運河に入る。10艇ほどの艇が開門を待っていた。

風が段々強くなり運河を出るころには20ノットになるが内海に入ったので波もなく静かだった。



Meganisi 島には良い錨泊地があちこちあるがレストラン 棧橋のある Spartochoiri の入り江に入りレストラン Spilia の棧橋に着ける。前回は電源を確保できたがほぼ満席の状態でも電源は確保できなかった。早速泳ぐ。夕方には満杯になった。



夕食は 20 時に予約する。理香さんも元気になり食欲が出てきたので安心する。

カラマリフライ、タコグリル、グreekサラダの定番にツキーニのフライ、ペッパーのフライ、スブラキ、エビのグリル、チキンのグリルをハウスワインで食べる。タベルナは 30 弱あるテーブルが満席になっていた。

どれもシンプルな味付けだが新鮮で美味しかった。海辺の素敵なタベルナであった。

食事が終わったのが 23 時過ぎになっていた。もう一泊ここに停泊することにして静かなヨットの中で安らかな眠りにつく。

8 月 13 日 (土) Meganisi 快晴 微風

今回初めて朝ゆっくり起きる。今日のはんびり此処で過ごすことにする。朝食をタベルナに食べに行くが 8 時過ぎにやっとオープンした。

小さなビーチがあり其処のビーチパラソルと長椅子を借りてゆっくりすることにした。

私は PC のメールが起動しなくなったのでタベルナで WIFI を使って何とか直す。午前中一杯かかってしまった。

お昼は艇に戻りソーメンを頂く。食後はビーチで休む。パラソルの日陰で長椅子に寝そべって海風を浴びていると暑さも感ぜず心地良い。

艇に戻り泳いだ後ついでにプロペラの貝落としをする。艇でシャワーを浴びた後ジンライムでハッピーアワーを過ごす。

夕食はタベルナで今日も食べる。

例の如くグreekサラダ、グリルド・ペッパー、フライドカラマリ、グリルド・サーデン、ラムチョップ、スタッフド・トマト、スタッフド・ペパーを白ワインで食べる。特にラムチョップが柔らかく美味しかった。最後はギリシャの地酒チポロとグreekコーヒでしめた。

のんびりした一日であった。

8月14日(日) Meganisi Kefallinia(Eufimia) (25NM) 快晴 東15~20ノット

朝昨晚注文しておいたパンを米谷さんがタベルナから持ってきてくれ朝食をとる。未だ暖かいパンでバターを塗って食べたが美味しかった。

8:20に舳いを解く。イオニア海のこの辺りは島に囲まれ風が強くても静かな海面で走りやすい。東の風が予報より強く15~20ノット吹く。当初フルセールで横風を受けて8ノットの速度で快調に帆走する。後半海峡の通り道からの時折20ノットを超える風が吹くようになりメインセールを3ポイントリーフする。イタキ島とケファロニア島の海峡に入ると風が前に回ったので機帆走にする。夏真っ盛りで行き交うヨットが多い。

港が混むといけないと思って13:20にケファロニア島のエフミア港に入るが空いている岸壁の場所に着けようとするがダメとの事だ。チャーターヨットの基地があり岸壁の係留場所はチャーターヨット用に確保されている繫留場所だった。VHFで、港内でアンカーを打って待てとの指示を港の管理人から受ける。

アンカーを打ってソーメンのお昼を食べて待つが音沙汰ない。ラバーボートを降ろして様子を見に行く。ついでに明日のレンタカーの予約をする。

ここはチャーターボートの会社サンセールsの基地になっていて今日日曜日が1週間単位のチャーターボートの返却の日で繫留場所は最終的に満杯になった。

結局18時になっても連絡がなく諦めて湾内で錨泊することにする。再度上陸してケバブとラムチョップをテイクアウトしてくる。

どちらも良い味だった。

風が結構強く、日が暮れてからは半袖では寒く長袖、長ズボンが必要だった。

戻ってきたチャーターボートを数えると20艇を超えていた。明日はこの艇が出て行くので空くだらうとの事だった。

港内で錨泊する。

8月15日(月) Kefallinia 快晴

朝食後ラバーボートのエンジンのかかりが悪いのでプラグをチェックする。案の定プラグがウエットだった。ドライにしたら一発でかかった。

岸壁に舳ってある艇が2艇ほど出港していたので、エンジンが調子良くなったラバーボートで上陸して港のスタッフに空いた場所に繫留して良いか確認するとOKとの事、艇に

戻りアンカーを揚げて岸に舫う。

係留して昨日予約してあったレンタカーを借りる。早速観光地を廻ることにして最初メリッサニ洞窟に行く。海と直結している洞窟が陸上から空いている穴から光が差し込んで幻想的な青の色を醸し出している。



その後島のメインになるアルゴストの町を訪ねる。中心地だけあってショッピングアケードが連なってにぎやかな町だった。お昼を食べるがハンバーガーにした。マクドナルドのハンバーガーと違って手作りの美味しいバーガーだった。そしてお昼の後ミルトス・ビーチに行くが、山の中腹から見るミルトス・ビーチは白い浜と海の変化のある青の色は素晴らしかった。ビーチは沢山の海水浴客が日光浴をしていた。



米谷さんと私はミルトス・ビーチで泳ぐが海の青の色は上から眺めた方が美しい。帰りにアソスを上から見に行く。錨泊したら気持ちよさそうな入り江だった。

その後島の南西になるミルトス・ビーチを上から眺めるが海の色素晴らしさは天下一品だった。ビーチに行くと沢山の人がビーチパラソルの下で日光浴をしている。米谷さんと私は泳ぐ。熱くなった体を冷やすの海に浸かるのが一番だ。18時過ぎに艇に戻る。

細かくしたオニオンをトマトの上に載せたサラダと生ハムでジントニックを楽しむ。

夕食は昨日のラムチョップとケバブが美味しかったので再度テイクアウトする。

そしてズッキーニのリゾットを頂く。今日は赤ワインを楽しんだ。

明日米谷さん達が早朝の飛行機なので早々と就寝する。

8月16日(火) Kefallinia 快晴

朝4:20に起きる。不覚にも米谷さんに起こされる。直ぐ荷物を積んで約45km先にある空港に向かう。途中工事中で通行止めがあったが迂回路が分からず細い道をくねくね彷徨う。GPSは何度も工事中の道に戻ろうとする。何とか6:40発の飛行機に間に合うよう空港に着くが何があるかわからない。この便の到着便でHarrietが6:15にアテネより来る。元気な姿でHarrietが出てきて2年ぶりの再会を喜ぶ。

帰りは来た道と違う道に行く。途中ミルトス・ビーチを上から見る。

朝食後彼女も早い時間にアテネを出発しているなので暫く艇で休むことにする。

休んだ後昨日と同じメリッサニ洞窟を案内してからミルトス・ビーチに行くが駐車場が満車だったので諦めて上から海の青色の見事な変化と砂浜を眺めるだけにしてアソスに向かう。ここは小さな入り江でそれを囲む街並みが美しい、又丘の上にはヴェネチア時代の要塞跡がある。数隻のヨットが錨泊していた。小さなピアにはカタマランとモノハル艇がそれぞれ1艇舳っていた。周りはレストランで囲まれ小さな砂浜ではビーチパラソルが並び海はクリスタルウオターで緑に囲まれ丘の上にはお城があり箱庭のような風景だった。



お昼はピアの一番先にあるタベルナでグreekサラダ、グリルドカラマリ、ケファロニアミートパイ、ポークスブラキを食べる。

鮮度の良いカラマリだった。この島はギリシャの美食の島といわれているだけあって食べるものは美味しい。

食後泳ぐ、若干水が冷たかった。朝早かったので早めに艇に戻り買い物をしてからレンタカーを返す。

プロパンガスボンベを換えに行く。場所によって値段が違うので面白い。ここは安く16€だった。艇の水も満タンにする。船尾でシャワーをいつものように浴びる。女性陣は艇内で浴びる。

Harriet がジンとレモンそしてビールを入れたブルと云うカクテルを作ってくれ楽しむ。レモンが効いて美味しい。

夕食は昨晚と同じでオニオンを載せたトマト、ペパーの細切りしたオイル漬け、生ハム

そして3日連続でラムチョップをテイクアウトする。連続して食べても飽きないほど美味しい。柔らかく上手にグリルしてある。

昨晚のズッキーニのリゾットも出る。

食後は Harriet の娘の Kate の結婚式の写真を、アイリッシュミルクを飲みながら見せてもらう。

8月17日(水) Kefallinia Ithaca (Pega Pigadhi) (12 NM) 快晴 微風

今日の帆走距離は短いのでパンとヨーグルトとネクタリンの朝食をゆっくりと済ませる。ハーバーの繫留代を支払うと2泊して電気、水道使って44€だった。

10時に舫いを解き隣のイタキ島に向かう。イタキ島はホメロスの叙事詩「オデュッセイア」の中の英雄オデュッセイウスの故郷と云われている。静かな海面を多数の艇が行き交う。13時にイタキ島の南東部にある入り江の Pega Pigadhi にアンカーを打つ。既に20隻ほどアンカーリングしていた。底が砂と岩と海藻なので底を見ながら水深8mのところからアンカーを打ってから、ラバーボートで岸の岩場に船尾から舫いを取りに行く。今晚は風も強くない予報なので心配はないが、陸からも舫いを取り安心だ。潜ってアンカーを見ると岩にかかった状態だった。陸からも舫いを取っているのが反対側に艇が移動することが無いので心配ない。

皆さん早速泳いでからソーメンの昼食をとる。午後はゆっくり艇で昼寝をしたり読書をしたり泳いだりする。水温は26度だった。火照った体を冷やすには丁度良い温度だ。

今晚は満月の前日だ。月が上がってくるのと合わせてブルをハリエットのお土産のスモークサーモンで楽しむ。日が暮れるのと同時に月明りが明るくなり海面をキラキラ照らしてくれる。素敵情景だった。

夕食はグリーンカレーを白ワインで月光の明かりで頂く。グリーンカレーのスパイスが食欲を誘った。

食後は月明りの下で飲みながら深夜まで自然を楽しんだ。

8月18日(木) Ithaca Zakynthos (AY Nikolaos) (30NM) 晴れ 微風~西10~20ノット

昨晚は夜中の2時過ぎに寝たのでゆっくり起きて朝食を食べた後岸の岩から取っていた舫いを取る。ハリエットと悦子は泳ぐ。9:55にアンカーを揚げてザキントス島目指す。行き交う艇が多い。暫く東の微風で機帆走するがお昼過ぎると西風に代わりだんだん強くなる。ケファロニ島の南の岬を超えてから15ノット以上の風になり帆走を楽しむ。時折20ノットぐらいになるのでメインを3ポイントリーフするが6ノット以上をキープする。同じ方向に行くヨットと伴走を楽しむ。

15時にニコラウスの港に入り空いていた南側の岸壁に横づけをしようとするドイツ艇の人が舫いを取ってくれる。風が未だ強かったので助かった。

風に押されて岸壁との間はフェンダーで確保しているがあまり良い状態ではない。でも

夕方には風が治まるので良いことにする。そうこうしているうちに次から次にヨットが入ってきて岸壁は一杯になる。

港の脇に小さな砂浜があるので泳ぐ。透明度が良く何色もの青を醸し出した海の色が素晴らしい海水浴場だった。

艇にも戻って皆さん船尾のシャワーを浴びる。

夕暮れはハリエットが来てからの定番のブルで喉を潤す。レモンが沢山入っているので泳いだ後にピッタリの飲み物だ。

今晚はとんかつ。ハリエットの大好物だ。ハリエットとは同じ1945年生まれなので今晚お祝いをすることにした。日本で手に入れた1945年のボルドーワインを開けることにする。

着けている岸壁埠頭の明かりが煌々と明るい。デッキは昼間のようなこの岸壁埠頭は電気も水もない代わり無料だ。

ハリエットと私は1945年の生まれでお互いに71歳になるお誕生会をする。1945年のワインを見ると2014年に1945年の樽からビン詰めしたと書いてあった。

古いワインの特徴で甘く香りが良く、とろけるようなまろやかなワインだった。

日本の豚には及ばないが肩ロースを上手に揚げたとんかつ美味しかった

食後折角満月の日だが埠頭の照明塔が明るいので海岸に行って月見をする。月は時折薄い雲に隠れるが海岸を月が照らし素晴らしい光景だった。

8月19日(金) AY Nikolous Zakynthos (Main harbor) (13NM) 快晴 微風

何時もと同じようにコーヒー、ヨーグルト、パンと果物はピーチで朝食を済ませた後、9時に舳いを解く。既に前後に繫留していたヨットは出港していた。

今日は13NMと短いので気楽だ。静かな海面を機走するが行き交う艇が多い。

12時にザキントス島の中心になるメインハーバーに入港する。電気、水道のある岸壁は一杯で諦めてメイン通りの前にある岸壁に槍着けするスタッフが来て手伝ってくれた。

ここは水しかない。2泊で45€だった。お昼を冷やしソーメンと残っていたラムチョップをビールで頂く。

ランドリーを確認したところコインランドリーがなく洗濯屋さんが来てくれるとの事で頼んだ。次々艇が入ってくる。

PC や携帯のバッテリーがなくなってきたので前のお店でコーヒーを飲みながら充電をする。明日は島一周の観光船で一日遊ぶ予定でトリッパーボートを予約する。

小型タンクローリーが居たので給油を頼む。燃料はタンクに200L入るが半分なくなる前に給油するようにしている。夕方給油の予定が明日の朝になることになる。大変にぎわっているウオターフロントだ。行き交う人間模様も楽しい風物詩だ。港の防波堤の外が海水浴場になっていたのひと泳ぎしてからシャワーを浴びる。

ブルを飲んだ後に晩御飯はサラダ、鶏の照り焼きとラーメンを頂く。いつも美味しい。

月を見ながらコックピットでウイスキーのロックを飲みながらうとうとした。

8月20日(土) Zakynthos 快晴 微風

朝食の後タンクローリーが来るのを待つ。昨日予約しておいたトリッパーボートに9時前に行かなくてはいけないので来なかったら諦めてようとしたときに来た。105L入る。

港の外れのトリッパーボート乗り場に行くとも既に沢山の人たちが乗り込んでいた。3階建てのトリッパーボートに100人以上は乗る。トリッパーボートは途中で投錨して泳いだりビューポイントに寄ったりして一日中楽しませてくれる。自分で船頭しないで済むので楽だ。最初にブルーケーブに行く石灰岩の岩が削られたケーブだが海の色が変化して素晴らしい景観だった。次に Shipwreck 海岸に行く。ここは三方100m以上の切り立った岸壁に囲まれ陸からは行けない砂浜だ。昔密輸船が難破して浜に乗り上げたがそのまま浜に鎮座している。海の色と砂浜の色と高い岸壁が絵葉書のようなきれいだ。前回トリッパーボートで来ようとしたが風が強く上陸できず途中で引き返した処だ。



次に小さな入り江の中にある漁港 Porto Vromi を覗く。島の南西部に続いている洞窟群を見ながら進むが何とも言えない海の色だ

島の南は自然環境保護地区になるが明日錨泊を予定している Keri の湾を見ることが出来た。お昼に卵サンドウィッチを持っていて食べたが港に着いたのは17:30になっていた。

途中景色を楽しみながら転寝したり美しい浜で泳いだり楽しんだ遊覧だった。

帰る途中で市場が未だ開いていて覗いて帰るが明日もやっているとの事なので朝市場に寄ってから出港することにした。

艇に戻ると朝お願いしてあったプロパンボンベが届いていたのと昨日出した洗濯物も運んできてくれた。

夕食はハリエットがご馳走してくれるとの事で外食する。ギリシャ料理のお店だったがカラマリフライ、ズッキーニボール、チーズ、グreekサラダの後メインにケバブ、テnderロインステーキ、ラムチョップを頼んだが食べきれずドギーバックをもらい明日の食料とすることにした。味は美味しく沢山食べたが如何せん量が多かった。

帰ってから水割りを楽しんでから就寝する。

8月21日(日) Zakynthos (Main harbor) Zakynthos (Keri) 15 NM 快晴 微風

トリパーボートの発着港の前で市場が開いていたので午前中悦子とハリエットが買い物に出かける。結構遠いので港内をラバーボートで行こうとしたがエンジンがかからないので歩いて行った。ラバーボートのエンジンのかかりが悪く、暫くするとかかったりプラグがウエットになっているので拭いたりするとかかるが今日はエンジンルーム内がウエット過ぎたのかプラグを何回拭いてもかからなかった。23日に島内観光を予定しているのでレンタカーの予約をする。ギリシャではレンタカーは安かったが人気の場所の最盛期と云うことで小さな車で60€はする。隣に繋留しているスウェーデン人の夫妻がデスカウントして45€で借りたというのでその店を教えてもらい55€と云われたので、彼は45€だったというので45€にしてくれた。言ってみるものだ。この夫妻は5年前にリタイヤーして冬もヨットで生活しているとの事だった。

11時過ぎに買い物も終わり12時に舳いを解く。今日は島の南の湾にある Keri に行くがここは昨年陸から来て錨泊したいと思っていたところだった。

お昼はソーメンをビールで頂く。ソーメンとビールと太陽と海は良く合う。

14:40に Keri の入り江にアンカーを打つ。数えると15隻ほどアンカーを打っていた。底は砂地で徐々に15m ぐらいから徐々に浅くなりエリアも広くアンカーが打ち易いところだった。6.5mの深さにアンカーを打つ。

泳いでアンカーの効きを見に行く。深く食い込んでいなかったがしっかりと砂を噛んでいた。

夕方までそれぞれ読書をして過ごす。夕食前にブルをメロンと生ハムで楽しむ。

夕食は昨晚のタベルナでのテイクアウトした、ケバブ、ポテト、フライドカラマリで済ます。ギリシャ産白ワインを飲むがドライで食事に合う。

22時過ぎにだんだん丸が欠けて来た月が木星のような橙色で水平線から上がって来た。

3人とも MNSC (Moon light Natural Swimming Club) のメンバーなのでナチュラルに

なり泳ぐ。水は暖かく気持ちよかった。

月明りが海面を照らし静かな錨泊地の夜をウイスキーの水割りを飲みながら夜半まで楽しんでから就寝する。

8月22日(月) Keri Zakynthos(15NM)快晴 微風

朝食後一休みしてから全員海水浴をしてアンカーを10:10に揚げる。

約3時間の行程になるが微風の為、全行程機走する。13:20にほぼ一昨日と同じ位置に船首かアンカーを打ってスターン着けをする。

お昼はハリエットがツナサンドを作ってくれビールで頂く。錨泊していたのでPC等の電池の充電を兼ねてお店で充電をする。町を散歩したりして何もすることもないゆっくりした午後を過ごす。好きな時間だ。

夕方になるといつものように。ハリエットがブルを作ってくれ心地よい風を浴びながら夕暮れを楽しむ。

夕食にエビのグリルをテイクアウトしてサラダ、ラムチョップを昨年CAVOK5にいらした菅原さんの差し入れの泡盛の古酒で食べる。ハリエットは40年前に沖縄に滞在したことがあり泡盛を楽しんでくれた。

8月23日(火) Zakynthos 晴れ 北北西の強風

午前中に町のメイン通りに3人で買い物に出かける。夏のシーズンも終わりに近づき各店バーゲンセールをしていた。

半ズボンを一つ私は買う。お昼の代わりに軽くスナックを食べて13時にレンタカーを借りる。最初に先日トリッパーボートで行ったShipwreck Beachを上から見に行く。上から見ると鳥瞰図の様に見えるので、海の青の色と岸壁の白の色が際立って綺麗だった。今日は北北西風が強く北西に面しているこの湾は波が強くトリッパーボートは近づけず海水浴客は誰もいなかった。難破船だけが鎮座していた。

その後タベルナを探しながら島の南のビーチに行く途中の山中にタベルナを見つけてそこでお昼を取る。グreekサラダ、チキンスブラキ(串焼き)スブラキケバプー、ハンバーグを私以外ビールで食べる。おばあさんと息子夫婦でやっているタベルナでおばあさんの料理は、とっても美味しかった。総額24.5€には驚いた。

時間が遅くなってきたのでビーチは諦めてヴェネチア時代のお城を見学に行く。時間外で場内には入れなかったがザキントスの町を見渡す丘の上であり港も一望出来て素敵な景観だった。

艇に戻ってからそれぞれ読書をして過ごす。

ブルを夕暮れ楽しんだ後、夕食はハリエットがサラダを作りチキングリルを頂く。

ソースがチキングリルを引き立ててくれた。

8月24日(水) Zakynthos 曇り後雨

今日はハリエットが下船してアントニオが乗船する日だ。いずれも夕方の便で出入りする。午前中ハリエットはバッグ詰め、我々は艇の掃除をする。悦子がチキンサンドイッチのお弁当を作り、オリーブ工場の見学と海岸に行く。オリーブ工場はミュージアムになっていて係員が説明してくれる。

お土産に試飲して美味しかったオリーブオイル、そしてオリーブ石鹸を買う。

その後海岸に行きお弁当を食べてから空港に行きハリエットを見送る。代わりにアントニオがローマから来る。今年の春にはサルデーニャ島のカンジョウーネの彼の家でお世話になり、そして一緒にサルデーニャ島を航海した仲だ。もう一度一緒に航海したいということで急遽来た。久しぶりに会い懐かしかった。

丁度今日はギリシャ正教のお祭りがありザキントスの町は大賑わいで交通規制が引かれていてハーバーに車で入れず車を町の外れに停める。

ハーバーの前の通りは歩行者天国になりパレードが通過して大層な賑わいになった。

夕食はアントニオが来たのでタベルナでギリシャ料理を食べる予定をしていたが、タベルナが非常に混雑していたのでグreekサラダ、グリルドカラマリ、グリルドオクトパス、グリルドブロンをテイクアウトして艇でパレードを見ながら彼の差し入れのワインを飲みながら食べる。生憎と6月19日以来の雨が降った。

8月25日(木) Zakynthos 曇り 北風

朝食の前にアントニオが漁師から直接魚を仕入れてくる。朝食後アントニオにシップレックビーチを見せたく再度行く。何回見ても海の色、岩壁の白と素晴らしい景観だった。

約2か月ぶりの雨が昨日降り今日も曇りの天気ですいつものように北風だ。バルカン半島に夏常駐する高気圧とトルコの南に同じく常駐する低気圧の関係で7,8月はエーゲ海を中心に北風がほぼ吹き続ける。この月の90%は北風だ。特にエーゲ海を中心は一番強く吹きその季節風をメルテメと呼んでいる。

帰りにスーパーマーケットでこれからの航海の食料の買い出しをする。

1時に車を返してからざるそばをお昼に頂く。アントニオは初めてみたいだったが美味しいと食べていた。

昼寝の後港の外で泳ぐ。泳いでシャワーを浴びるのは日課になっている。

相変わらず港の前の道は賑わっている。

夕食は野菜サラダ、アントニオが料理したスパゲティポットルガ、悦子の料理のアクアパツァを赤ワインで頂く。アントニオは赤ワインが好きなので赤ワインになる。

食後に今日仕入れたブドウを食べるが甘くて美味しかった。

そのままアントニオと私はコックピットで寝てしまい目が覚めたときは1時を回っていた。

8月26日(金) Zakynthos ~ Katakolon(24NM) 晴れ 北~西微風

朝食をゆっくり食べて給水した後9:05にアンカーを揚げる。北東風が20ノット近く吹いている。港を出てメイン、ジブを3ポイントで揚げる。波が若干ある。機帆走で8ノット近く出る。帆走に移ってから暫く6ノットぐらいで順調なセーリングだったがその風も1時間立たないうちに弱くなり再び機帆走にする。今日の風の予報は15ノット以上の北風だったので全行程帆走を楽しめると思っていたが期待外れになってしまった。

13:50にカタコロンの港に入る。ここはオリンピアが近くにあるのでクルーズシップが寄港する。今日は、クルーズシップは入港していなかった。マリーナの埠頭にアンカーを打って船尾着けをする。21日にザキントスで会ったスエーデン人の艇が係留してあり彼らが舳を取りってくれた。22日以降ここに居たそうだ。

マリーナと云っても港の埠頭を利用しただけで水、電気があるだけだ。夕方管理人が集金に来たが繫留料一泊10€、電気と水道代5€でしめて15€だった。

200m以上あるマリーナ用の岸壁にはまばらに4,5艇が係留してあるだけだった。

お昼にアントニオがフレゴラポットルガを作ってくれビールで頂く。ポットルガの味が染みて美味しいイタリアンだった。

午後は洗濯をする。小型洗濯機をそのまま210Vにつないでしまっ慌てて変圧器で100Vにしたが動かなくなってしまった。仕方なく手洗いする。ついでに艇を水洗いする。

明日はアントニオがオリンピアを見学したいということなのでここに2泊することにする。

夕食は純日本風にして胡瓜の合もの、キャベツのピクルス、茄子のみそ炒めとお稲荷さんを菅原さんから頂いた泡盛の古酒“瑞泉”で頂く。アントニオは、泡盛は苦手のようなった。

食後散歩がてら港のカフェーに行つてこの雰囲気を楽しむ。日中はほとんど人影がなかったが夜は何件もあるタベルナに沢山のお客さんが入っていた。

海風が心地よい夜だった。

8月27日(土) Katakolon 快晴 微風

アントニオは港の直ぐ前にある駅から8:30の電車でオリンピア見学に出かける。

我々は行ったことがあるので艇に残り雑用と休養をすることにした。

久しぶりに電気が使えるので冷凍庫も復活してすべての電気器具の充電が艇で出来て助かる。漁から帰ってきた漁船を覗くと大したもののが揚がってない。やっと1隻口ブスターを揚げてきた漁船があったので1尾と中振りのエビ3尾買う。彼らのエビの漁獲のすべてだった。

ここは島と違い水道が豊富に出るので洗濯をする。強い太陽とそよ風で洗濯物はアツという間に乾く。

この港は繫留しているヨットも少なく寂しいが昼前に大きなクルーズシップが入港してきた。オリンピア観光のための寄港だ。

アントニオはオリンピア観光に行っているので悦子とみそ汁、肉の佃煮、昨晚の残り物をご飯で頂く。

アントニオが帰ってからハーバーの横にある海水浴場に行くが人影が少なく海水も今一綺麗でないのちょっとだけ泳いで帰る。水道からの水を直接かぶって体を洗う。

夕食はアントニオが腕を振るってくれてロブスターとエビのスパゲッティ・アラゴスタを作ってくれるが絶妙の味で最高の味のスパゲッティだった。毎日食べたい味だった。

8月28日(日) Katakolon ~ Kiparissia(30NM)快晴 東後西 微風から順風

08:05に朝食後舳いを解きアンカーを揚げる。港を出ると東からの順風が吹く。早速セーリングに移る。10過ぎに風が凪いでくる。予報通り西風が変わる時期だ。40分ほど2ノット前後の速度で漂っていると期待通り西からの風が吹き出してきた。時間はかかったが全行程出入りは別にしてセーリング出来た。

キパリシアの港に入るとカタコロンでも一緒だったスエーデン人の艇が既に入港していて今回も我々のもやいを取ってくれた。岸壁はかなり空いていたので彼らと同じ様に15:00に横付けする。パイロットブックには水道、電気ありと書いてあったが水道はあったが電気はなかった。

ソーラパネルが故障しているので電気が取れないと不便だ。冷蔵庫も使えなくなるのでミニスーパーに買いに行きついでに町に出るが小さな町でかつ日曜日だったので店は閉まっていた。コーヒーショップで暑くなった体をフローズンヨーグルトで冷やして帰る。途中街路樹のオレンジの木からアントニオは一つもぎ取って今日の晩に使うとの事だった。

心地よい海風が体を冷やしてくれる。

夕食は今晚もアントニオが料理してくれた。クレープをパウダーから作り中にハムとチーズを入れた前菜を作る。これまた美味しい。そしてニンニク、オニオン、トマトを使った茄子のスパゲッティもイタリア人の味で流石に美味しかった。

デザートは今日街路樹からもいできたオレンジを使ったクレープでウイスキーとびったりだった。

8月29日(月) Keparissia ~ Methoni(32NM)快晴 微風~西15ノット

07:40に舳を取る。隣に舳ってある艇のスエーデン人が見送りしてくれる。彼とは3か所で一緒になった。今年の冬はカラマタで越冬するそうだ。とてもフレンドリーな感じの良い夫婦だった。又の再会が楽しみだ。

暫く微風の中機走する。穏やかな海だ。予報通り10時過ぎから東から西に風が変わり段々良い風になってきたのでセーリングする。15ノット以上の追手の風になり観音開きで6ノット以上キープする。

Longos島の間の海峡を抜けて回り込むようにMethoniの入り江に入る。既に5艇ほどアンカーリングしていた。ヴェネチア時代とオスマントルコと歴史に翻弄されたペロポネソス半島の南西端の港である。昨年も寄ったが私のお気に入りの泊地だ。

砂地の4, 5mの深さのアンカーレーヅジで北、西からの風に完全に守られた良い泊地だ、

4, 5mの深さに13; 20にアンカーを打つ。35mチェーンを伸ばす。先にアンカーリングしていたドイツ艇の人が泳いでいて我々のアンカーを潜ってみてくれOKサインを送ってくれた。

早速悦子は再確認に泳いで見に行く。

お昼はアントニオがスパゲティ・ペペロンチーノを作ってくれ頂く。

何時もの様に食後はシiestaになる。船内で寝ても暑くない。

16時過ぎにラバーボートを降ろして上陸する。2泊錨泊予定なのでスーパーマーケットを探して食料の買い出しをする。



艇に戻ってからいつものように泳いでシャワーを浴びる。このいつもの泳ぎはリフレッシュしてくれる。

夕食は今まで少しずつ残っていた料理を片付ける。この三日間のダイジェスト版で美味しく頂いた。

今日は私の71歳の誕生日だったが今年も海の上で迎えられ幸せだ。

風が20ノット近く吹くので再度再度艇周りを確認して眠りにつく。

8月30日(火) Methoni 快晴 北西15~20ノット

朝方は風が弱かったが昼前より吹き出し時折 20 ノットを超える風が吹く。ここは良い錨泊地で波は立たず静かだ。風の音だけがごうごうする。

朝食後 PC をもって全員で上陸してそれぞれ充電する。漁師から魚を買おうとしたが小ぶりの魚 3 匹で 25 € した。アントニオが高すぎるとアドバイスしてくれ買うのをやめた。

昼前に艇に戻りアントニオは晩御飯の下拵え悦子はお昼のツナサンドを作ってくれる。その間私は泳いでアンカーの確認と水深とチェーンの長さの関係のスコープについて実地検分する。水深 5 m 弱のところアンカーを打ったが 20 ノット風でもアンカーからチェーンが底を這っている長さは 10 m 強力で底から残り 25 m 弱は斜めに浮き上がりながら艇に伸びていた。

5 m × 7 倍で 35 m のチェーンを流したが必要な長さだと痛感した。20 ノット以上強い風だと、5 倍ではアンカーが抜ける可能性もある。

お昼にサンドイッチを食べた後皆さん午睡する。

この港はホメロスの“イリアッド”に乗っているようだ。紀元前 670 年の話になる。

12 世紀にヴェネチアが東への海上交通の要所として、海賊から守るため要塞を作った。その後オスマントルコが 1499 年に征服して 1686 年にヴェネチアが取り返すまでオスマントルコの支配下にあった。

午睡の後アントニオと私は再度上陸して要塞を見に行く。幸い錠をしてあった要塞の入り口を知り合った管理人が明けてくれてロシア人の若いペアーと一緒に案内してくれた。

中にはトルコ風呂やミモレットや囚人の牢獄等の遺跡があった。

一緒に回ったロシア人の女性は美しく気品もあり楽しかった。



艇に戻りアントニオはラザニアを料理する。私は泳いで明日アンカーを揚げるとき他艇が邪魔にならないかチェックする。

夕食はオニオンソースのトマトとラザニアを赤ワインで頂く。美味しいラザニアだった。食後音楽を聴きながら風の治まった泊地でウイスキーロックを楽しんだ。

8月31日(水) Methoni ~ Kalamata (32NM) 快晴 微風後南10ノット

7:45にアンカーを揚げる。静かな海峡を抜けながら朝食をとる。お昼前まで風が弱い。昼前に南からの7~10ノットぐらいの風が吹き出したのでセーリングにしてお昼に昨晚のラザニアをビールで頂く。静かな海での昼食は美味しい。

14時にカラマタ・マリーナに舫う。

手続きをしてからコインランドリーで洗濯物を洗い、スーパーマーケットに明日からの錨泊に備えて買い出しに行く。買ったものは艇に届けてくれた。

久しぶりにシャワールームで体を洗う。今晚は外食することにしてマリーナオフィスの女の子にお薦めレストランを聞いてそこに行く。グreekサラダ、ズキーニボール、ザジキ、グリルド・サーデン、グリルドカラマリを白のハウスワインで食べるがお薦めだけあって美味しく、アントニオも喜んでくれた。

我々の係留しているポンツーンの直ぐ前のレストランだったので直ぐ艇に戻れた。

